

人と人  
つながりの物語

コープデリグループの

組合員数は約550万人。

組合員の皆さんの中だけ、物語がある。その物語を

毎月一つお届けしていきます。

描いているのは皆さんのくらしとコープデリの接点。

あなたの物語はどんな物語ですか。



illustration: Maiko Dake

長野県の最北端にある栄村。

山深い集落のひとつで、勝子さんは83年間暮らしている。うつかり扉を閉め忘れると、家の中に入った猿にお供え物をとられることがあるという山の中だ。

街への移動には予約制の乗り合い交通を利用するが、一番近いスーパーまで1時間ほどかかる。今は一人暮らしの勝子さんにとって、生鮮食品や調味料、洗剤など多くの生活必需品を届けてくれる生協の配達は、なくてはならないものだ。

「生協さんが来てくれて助かるよ。冬は特にありがたい」と感謝する。

冬はならないものだ。「生協さんは雪の日は融雪が間に合わないことがある。そんなときは集落の下でトラックを停め、三ツ井さんは勾配のきつい道を登って商品を持ってきててくれる。「取りに行くから無理しなくていいよって言うんだけど、私が行く前にさっさと歩いて来ちゃうんだよね」

「勝子さんのお宅に配達する木曜日は、野沢温泉村など合わせて30軒ぐらいになります。勝子さんのお家は山の上。同じ集落で4軒配達しています」と説明する三ツ井さんは、もう5回ほどこのコースを担当している。「冬もつた。周辺の道路は雪が降り始める11月から5月ごろまで閉鎖され、除雪される国道など限られた道しか使えない。コープながら栄村を担当するのはコープデリ中野センターで、配達担当は顔なじみの2人が1年交代で来る。「今年は三ツ井さん。いい人だよ。私がふざけて『これは何ですか?』と注文書のビルを指して聞くと、『力が出るもの』なんて言う。私がビルをよく頼むから。冗談が通じる人

で、面白い」と勝子さんは笑う。

家の周りには山の水を流して

雪が間に合わないことがある。

そんなときは集落の下でトラックを停め、三ツ井さんは勾配の

きつい道を登って商品を持ってきててくれる。「取りに行くから無理しなくていいよって言うんだけど、私が行く前にさっさと歩いて来ちゃうんだよね」

勝子さんは、2人の娘を育てながら保育士として42年間働いた。夫は50代で他界し、同居していた実母と母方のいとこもみとつた。娘たちはそれぞれ結婚して県内で暮らしている。「自分が食べるものだけ用意すればいいから、一人暮らしは気楽だよ。娘がお米を送ってくれるし、雪下ろしは行政がやってくれる。必要な物は生協さんが届けてくれる。みんなに助けてもらっているから、何も不自由はないね」

山の木々が色づく春と秋。短い夏と長い冬。この秋の紅葉は、特に美しかった。いつかは山を下りなければならぬだろう。でも、元気なうちは生まれ故郷を離れたくない。今の一番の楽しみは、近所の茶飲み友だちとお菓子や果物をつまみながら、おしゃべりする時間だ。

から、車を停めて視界が戻るのを待ち、少しづつ進みます。それで配達が遅れることもありますが、組合員さんは『いいよ』と言ってくれます。待っている人がいるから、行かなきやいけませんね』

「勝子さんのお宅に配達する木曜日は、野沢温泉村など合わせて30軒ぐらいになります。勝子さんのお家は山の上。同じ集落で4軒配達しています」と説明する三ツ井さんは、もう5回ほどこのコースを担当している。「冬もつた。周辺の道路は雪が降り始める11月から5月ごろまで閉鎖され、除雪される国道など限られた道しか使えない。コープながら栄村を担当するのはコープデリ中野センターで、配達担当は顔なじみの2人が1年交代で来る。「今年は三ツ井さん。いい人だよ。私がふざけて『これは何ですか?』と注文書のビルを指して聞くと、『力が出るもの』なんて言う。私がビルをよく頼むから。冗談が通じる人

過去の物語も  
こちらから読めますあなたのエピソードを  
お寄せください。

コープ職員との心に残る出来事を随时募集しています。氏名・電話番号・組合員コードを記入し、郵便(〒336-8526埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 コープデリ連合会 コミュニケーション推進部宛)か、左記のWeb応募フォームよりお送りください。